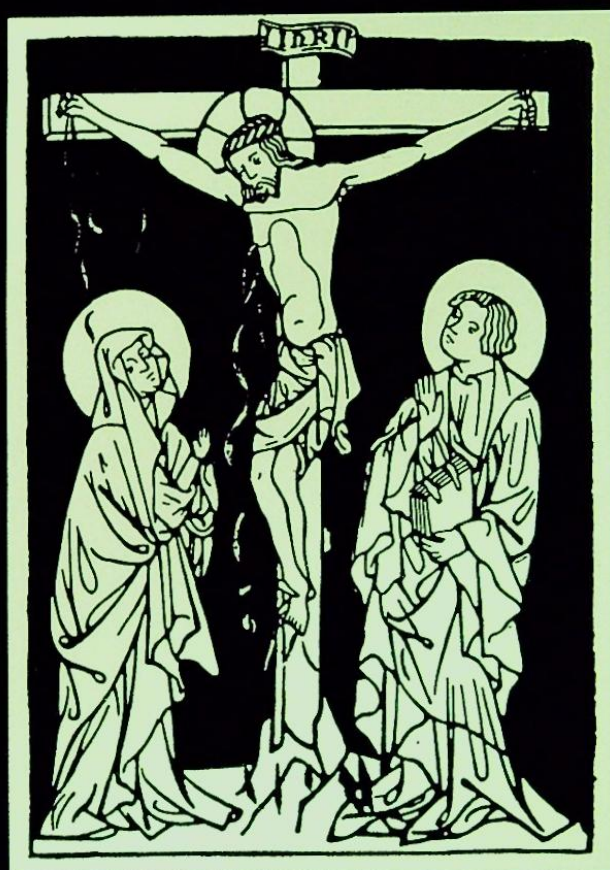


JOH. SEB. BACH
Johannes Passion
BWV 245

J. S. バッハ生誕300年記念

ヨハネ受難曲演奏会



'85.3.16(土)PM.6:00 開演

岩手県民会館大ホール

主催 / 盛岡バッハカンタータ・フェライン
仙台宗教音楽合唱団

PROGRAM

J.S.バッハ (1685—1750)

《ヨハネ受難曲》BWV245

佐々木 正 利(福音史家：テノール)

池 田 直 樹(イエス：バリトン)

渡 部 洋 子(門番の女, アリア：ソプラノ)

佐々木まり子(アリア：アルト)

辻 秀 幸(下僕, アリア：テノール)

水 野 賢 司(ペテロ, ピラト, アリア：バス)

メッセージ：

若 井 啓 治 牧師

(盛岡聖書バプテスト教会)

合唱/盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

合唱/仙台宗教音楽合唱団

オーケストラ/東京バッハ・カンタータ・アンサンブル

副指揮：鈴木雅明(チェンバロ)

指 揮：佐々木正利

▷ごあいさつ

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン 代表 石倉 久夫

本日はバッハ生誕300年を記念して行う「ヨハネ受難曲」演奏会に多数御来場いただきまして誠に有難うございます。

私共は、かつて当地においてバッハの「マタイ受難曲」を演奏するために臨時に結成された団体にその流れをくんでおりますが、結成以来9年目を迎えた今、「マタイ受難曲」の対極にある「ヨハネ受難曲」を、指揮者を同じくする仙台宗教音楽合唱団と共に演奏する機会を得たことに深い感慨を憶えると共に、本演奏会を新たな旅立ちへのステップにしたいと思います。

さて本日の演奏会は、バッハの受難曲の演奏を知る方々にとっては稀有な体験をすることになろうかと存じます。指揮者と福音史家を同一人が行うという試みは本邦初と聞いておりますが、バッハ生誕300年を記念する新しい演奏スタイルとして興味深くお聴き下さい。

そして本日御来場いただいた皆様と共に、私共の演奏を通して、人類の生んだ最高傑作の1つである本作品の魅力を分かちあうことができれば誠に幸いと存じます。

▷合同演奏会によせて

仙台宗教音楽合唱団 委員長 佐藤 佳樹

本日、バッハの「ヨハネ受難曲」を盛岡の地で、しかも合同演奏という形で実現できますことは、10年前に「マタイ受難曲」を演奏して以来、私達の長年の夢でした。この夢をかなえて下さった、指揮者の佐々木氏と盛岡バッハ・カンタータ・フェラインの皆様は心より感謝いたします。

今回の計画には、仙台と盛岡との距離の問題を始めとして色々な困難が予想されました。それらを乗り越えることができたのは、佐々木氏のもとで「よりよい音楽を」という両団体の情熱によるものと確信いたします。

この演奏会を機会に両団の友好がますます深まり、友情と音楽の輪が次々と広がっていくことを期待しております。

最後に、この演奏会を御支援いただきました、ソリストの皆様、オーケストラの皆様、そして、本日おこしいいただきました聴衆の皆様は心より御礼申し上げます。

“Nicht Bach — Meer hätte er heissen müssen —” 『彼は小川（Bach）ではなく、大海（Meer）と命名されるべきであった』——偉大なる音楽家J・S・バッハをかのベートーヴェンはこう表現しました。その大バッハの生誕300年にあたる本年、以前からバッハの音楽の虜^{とりこ}になり、包容力豊かな人間バッハに啓発されて、真摯に研究演奏活動が続けてこられた盛岡、仙台の楽友と友に秀作「ヨハネ受難曲」を演奏できますことは、とても幸せに思います。キリスト教は、私たち人間が本質的にもっている「罪の性質」から脱却し、創造主である全能の父なる神に帰依することを説くものでありますが、そこでは、およそ人間の心の内奥に存在するあらゆる感情に深く係りあいをもつことになるので、著名な作曲家の殆んどが、言わゆる「宗教音楽」の分野に名作を残しているのも頷けましょう。中でもバッハは、確固たる信仰の基盤の上に、そのすべての活動を神に捧げた敬虔なクリスチャンでしたから、彼の音楽に接していると、虚偽や自尊、気負といったものが次第に浄化され、喜怒哀楽の感情も、より自然な形で、なお説得力をもって心に響いてくるのです。

本日は指揮者と福音史家（エヴァンゲリスト）を兼任するわけですが、本来、物語の進行や音楽的流れの上で、又単に、演奏者として求められる技倆、性格からいっても、両立不可能なパートなのでしょうが、敢えてこれに挑むのは、受難曲中の聖書の言葉を通し、バッハの精神再現を細部に亘って担わんとしたからです。もちろん、実際の演奏に際してはどうしても不都合なことが生じますが、国際的チェンバロ奏者鈴木雅明氏に副指揮という形でその困難の克服をお願いできましたことは幸いでした。こうした事情から、演奏する一人一人が自分の持ち分をこえて回りに気が配れるように、アンサンブルの連携を密にするべく努力して参りました。イエス役の池田直樹氏はじめソリストの方々は皆日本を代表する歌手ですし、オーケストラのメンバーも、日頃は独奏者として、又一流オーケストラの首席奏者として活躍なされている方々ですが、こうして過分な御負担をおかけすること、本当に申し訳ないことと思います。しかし、そうした皆さんの御協力を得て、キリストの深い愛につつまれた「ヨハネ受難曲」を演奏できること、時には、やりきれぬ思いになることもあります。人間の罪が故に十字架につけられたイエス・キリスト、しかし、それをも許してくれた神の大きな愛に、バッハを通して触れたこの喜びの確かさに、ひたすら感謝をするものです。

バッハの受難曲

1685年3月21日、チューリンゲンのアイゼナッハにJ・S・バッハは生誕した。彼は修行時代から、大家として立ったのちもヴァイマル、ケーテン、ライプツィヒと、ほとんどドイツにとどまって活躍している。それにもかかわらずバッハは全欧に栄えていた音楽のすべての要素を自分の内にたくわえた、あたかも『海』のような存在であった。そしてその生涯のうちに生み出された音楽は、古典から現代へと続く長大な潮流の『源泉』となっている。そのバッハが自身の神への思いと人間の精神を、強靱にして敬虔な精神をもって音楽に表したものは、カンタータであり、またミサであり、そして受難曲であった。

受難曲とは、新約聖書の四福音書のいずれかをテキストとして、イエスの受難とその前後の事件を扱った音楽である。この歴史は初期キリスト教時代にまで遡るが、バッハが活躍する18世紀にはオラトリオの形態に近いものになっていた。福音史家やイエスなど登場人物にはレシタティーボ（叙唱）を用い、自由に詩作されたコラールやアリアを挿入して内容と様式を整え、典礼として、音楽として、重要な位置を占めるにふさわしい楽曲形態となっていたのである。

現存するバッハのふたつの受難曲は、彼がライプツィヒ聖トーマス教会の合唱長の時代に作曲されている。テキストはいずれもルター訳ドイツ語聖書に取っている。そのうち最初に作曲された『ヨハネ受難曲』は、他にくらべ自由詩が少なく、哲学的な内容を持つ「ヨハネ伝」の聖句にそっているが、実に劇的な印象をうける。それは合唱が、あるときはイエスを狙う群衆や兵士として、また登場人物の心情を歌う信者として、音楽的に重要な役割を随所に果たしていることに由来している。殊に第2部ピラトの審問からイエスの死に到る合唱・合奏・通奏低音・ソロが一体となった劇的な進行はその好例である。また、劇的な表現に流されず、常に客観的な表現を基調とした福音史家や、切々たるアリアとアリオーソがこの受難曲の構成を引き締めていることもまた注目される。彼の受難曲は、テキストの叙事性と叙情性とをその芳醇たる音楽性の上で調和させ、劇的緊張感をもそこに存在させている。まさにバッハ独自の“音楽による受難劇”を音空間のなかに構築しているのである。

バッハが『海』であり『源泉』である事実は三百年たった現在でも変わることはない。「彼の真の偉大さはかつて一度も測り尽されたことはなかった。それは、これから知り尽されることがないだろう。」とは、音楽学者アインシュタインの言葉である。バッハの音楽は未来永劫に、無限の法悦の泉としてありつづけるであろう。

(佐々木和哉)

プロフィール

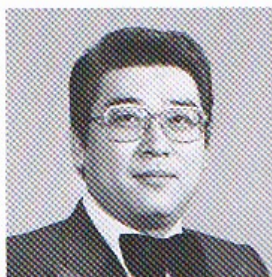
PROFILE

指揮, 福音史家(テノール)

佐々木正利

Conductor & Evangelist : tenor

MASATOSHI SASAKI



東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程及び博士後期課程修了。声楽を畑中良輔、須賀靖元、小林道夫、森明彦の各氏に、楽理を服部幸三、角倉一朗の各氏に、作曲を松本民之助氏に、宗教音楽を岳藤豪希氏に師事。芸大在学中より、バロックから現代に亘(わた)る宗教作品、特にバッハの声楽曲に深い造詣を示し、芸大メサイア公演、定期演奏会をはじめ、大学、一般、合唱団と多数共演。特に1978年芸大マタイ受難曲公演にて福音史家として高く評価される。

1979年シュトゥットガルトに渡り、ローレ・フィッシャー教授に師事。同年南ドイツにて数回歌曲リサイタルを持つ。1980年第6回ライプツィヒ国際バッハ・コンクール声楽部門第5位入賞。同年より1982年までデットモルト北西ドイツ音楽大学に学び、ヘルムート・クレッチマル教授に師事。同大学定期演奏会はじめドイツ、オーストリア、スイス、オランダ、ベルギー各地で多数演奏会に出演。特に1980年ウィーン楽友協会ホールにおける「マタイ受難曲」においては「若き日のペーター・シュライヤー」と新聞各紙で絶讃される。又ハンブルク、ブリュッセルでの「ロ短調ミサ」でも好評を博した。

帰国後もN響、読響、都響、日フィル、新日フィル、東響、新星日響の定期演奏会等に出演し、O・スウィートナー、H・リリング、H・ヴィンシャーマン、C・ビュンテ、小沢征爾、秋山和慶、井上道義氏等と共演、好評を博す。長年に亘り小林道夫氏のもと、東京芸大バッハ・カンタータ・クラブの指揮者をつとめ、後進の指導にあたる。現在、岩手大学教育学部専任講師。二期会会員。

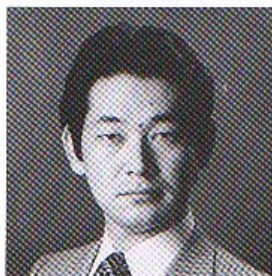
(仙台宗教音楽合唱団、盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、岩手大学合唱団各指揮者。)

イエス(バリトン)

池田 直樹

Jesus : bariton

NAOKI IKEDA



東京芸術大学卒業。同大学院修了。小島琢磨氏、中山悌一氏に師事。72年芸大メサイアのソリストとしてデビュー。75年第10回民音コンクール第2位。79年第7回ウィンナーワールド賞受賞。オペラ「コシファントウッテ」「ローエングリン」「フィガロの結婚」「ドンジョバンニ」「真夏の夜の夢」「ジークフリート」他第一バスの役、又創作オペラでも「真説カチカチ山」のタヌキ他で活躍。歌曲でも76年第1回リサイタル「冬

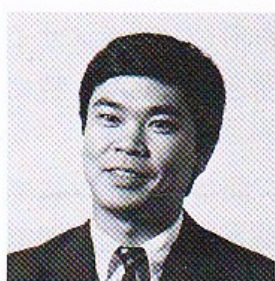
の旅」以降リサイタルを重ねる。80年文化庁派遣研修員としてミュンヘンに留学。ハンス・ホッター氏に師事。オラトリオでも高く評価されている他、各地での第九公演にも多数出演している。二期会、室内歌劇場会員。

ペテロ、ピラト、アリア(バス)

水野 賢司

Petrus—Pilatus—Arien : bass

KENJI MIZUNO



東京芸術大学卒業。同大学院修了。在学中安宅賞受賞。芸大メサイアのバスソロを歌う。皇居にて御前演奏を行う。毎日コンクール第2位。日伊コンクール第2位入賞。伊藤亘行、芳野靖夫両氏に師事。オペラは吉川和夫「金壺親父恋達引」の大夫(東京室内歌劇場)、青島広志「たそがれは逢魔の時間」のドッペルゲンガー(日本オペラ振興会)等に出演、また演奏会形式のオペラ、レオンカヴァルロ「道化師」、マスカーニ「カヴァレリア・ルスティカーナ」等にも出演。

コンサートにも数多く出演し、バッハ「マタイ・ヨハネ両受難曲」「クリスマス・オラトリオ」「マニフィカト」カンタータ、ヘンデル「メサイア」ハイドン「天地創造」ベートーヴェン「第九」モーツァルト「レクイエム」等。ドイツ・リートではシューマン「詩人の恋」シューベルト「美しき水車屋の娘」等。(6月11日には「冬の旅」を歌う予定である。)

他に日本の若手作曲家に新作を委嘱して「THE WORLD OF KENJI」のタイトルでユニークなリサイタルを主催している。淡海悟郎「歌曲集優しき歌」「死者の書」「珍・加腐立痴男」(水野賢治作詩)山本泰久「セロ弾きのゴーシュ」藤原嘉文「ドン・キホーテ」(水野作詩)吉川和夫「昔噺・娘と飛脚」(水野作詩)等の曲を初演し、好評を得ている。

門番の女、アリア(ソプラノ)

渡部 洋子

Magd.—Arien : soprano

YOKO WATANABE



東京芸術大学卒業。同大学院修了。1974年安宅賞受賞。79年奨学生としてチューリッヒ夏期マスターコースに参加、同年西ドイツミュンヘン国立音楽大学に入学。エルンスト・ヘフリガー、エリック・ウェルバ氏に師事。80年同大学に於て奨学金を受ける。81年同大学マイスタークラス修了。その後1年間聴講生として引き続き在学する。

芸大公演のハイドン「天地創造」をはじめとしてバッハ「マタイ受難曲」等宗教曲からリート・オペラに至るまで幅広いレパートリーを持っている。83年帰国

後、東京ヴィヴァルディ合奏団と共演。盛岡にて第1回リサイタルを開催する。現在東京と盛岡で後進の指導にあたっている。

アリア(アルト)

佐々木まり子

Arien : alto

MARIKO SASAKI



東京芸術大学声楽科卒業。同大学院独唱科修了。毎日学生音楽コンクール西日本第1位。NHK新人演奏会出演。伊藤亘行、森明彦の両氏に師事。学部在学中より小林道夫氏のもと、東京芸大バッハ・カンタータ・クラブ演奏会において数多くのカンタータ、オラトリオのアルトソロを受け持つ。又大学合唱団及び一般合唱団と多数共演。モーツァルト「レクイエム」「戴冠ミサ」、ヘンデル「メサイア」「エジプトのイスラエル人」、バッハ「ロ短調ミサ」などのオラトリオを中心に活動。1980年にデットモルト北声ドイツ音楽大学に留学してヘルムート・クレッチマール教授に師事。その間ドイツにおいてバッハを中心とした宗教音楽演奏会に数多く出演。ヒルデスハイムにおけるアルトソロカンタータ、ミュンスターにおけるC・Ph・E・バッハの「マニフィカト」は新聞紙上で絶讃される。帰国後もH・ヴィンシャーマンとの共演をはじめ、「マタイ、ヨハネ両受難曲」、「ロ短調ミサ」、カンタータ、ヘンデルのオラトリオ等のソリストとして東京を中心に精力的な活動を行っている。今回の演奏会終了後、ドイツにてヘンデルの「 Brockes 受難曲」他に出演が決っている。

下僕, アリア(テノール)

辻 秀幸

Diener—Arien : tenor

HIDEYUKI TSUJI



東京芸術大学声楽科卒業。同大学院独唱科修了。渡辺高之助氏に師事。在学中、芸大バッハ・カンタータクラブに所属し、小林道夫氏、佐々木正利氏からバッハ音楽の薫陶を受け、日本バッハ・アカデミーに参加し、アダルベルト・クラウス、ヘルムート・リリング氏等に師事。82年に霊南坂教会にて洗礼を受け、同年夏、ウィーン夏季マスタークラスの講習会に参加、ハンス・ホッター、ロバート・ホルの両氏に師事、演奏会に出演。ウィーンの音楽大学ホールで演奏会を開き好評を得る。

群馬大学、オール青山等の「メサイア」公演、日本オラトリオ連盟の「ロ短調ミサ」、モーツァルト協会の記念演奏会での「ハ短調ミサ」等各地で宗教曲を中心に活動するほか、モーツァルトの

「フィガロの結婚」、ロッシーニの「絹のはしご」等古典のオペラにも出演している。

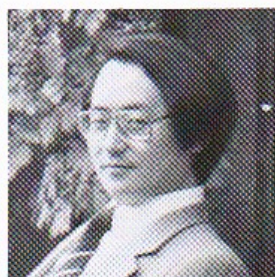
ぐるーぷ・なべ会員、芸大バッハ・カンタータ・クラブ同人。

副指揮, チェンバロ

鈴木 雅明

Subconductor & cenbalo

MASAAKI SUZUKI



12歳より教会のオルガン奏者を務める。東京芸術大学作曲科卒業。同大学院オルガン科修了。故矢代秋雄、広野嗣雄、鍋島元子各氏に師事。1979年アムステルダムのスウェーリンク音楽院に進み、チェンバロをトン・コープマン、オルガンをピート・ケイに師事。同音楽院よりチェンバロとオルガンのソリスト・ディプロマを得る。80年フランドル音楽祭で1位なしの第2位(チェンバロコンクール通奏低音部門)、82年同音楽祭オルガンコンクール第3位となった。

以来ヨーロッパ、日本での演奏活動を開始し、西ドイツ・ルール州立音楽大学で講師を務めたのち、現在松蔭女子学院大学、桐朋大学及び相愛大学にて教鞭をとっている。

松蔭女子学院大学においては、「キリスト教と音楽」などを講じる傍、チャペルのガルニエ・オルガンを中心に日本では数少ない、チェンバロ・オルガン双方の奏者として積極的な演奏活動をくり広げている。また、プロテスタント教会音楽の研究も手がけ、特にカルヴェンの詩篇歌の普及に務めている。日本キリスト改革派東京恩寵教会オルガニストでもある。

コンサート・マスター

蒲生 克郷

Concert master

KATSUSATO GAMO



東京芸術大学卒業。故多久興、海野義雄両氏に師事。NHK・FM「夕べのリサイタル新人演奏会」に出演。1976年渡独、ヒルデスハイム市立歌劇場管弦楽団奏者、ヒルデスハイム室内管弦楽団コンサート・マスターを務める傍らヴェルツブルク音楽大学にてボリス・ゴルト・シュタイン氏に師事、研鑽を積む。78年帰国、東京バロック・アンサンブル、東京バッハアカデミー、日本バッハアカデミー、憩弦楽四重奏団等の室内楽、室内アンサンブルの指揮者を務める。

現在、東京芸大管弦楽研究部講師、久合田緑弦楽四重奏団第2ヴァイオリン奏者、東京芸大バッハ・カンタータ・クラブメンバー、水戸バッハコレギウム指揮者。

▷東京バッハ・カンタータ・アンサンブル◁

東京バッハ・カンタータ・アンサンブルは、東京芸術大学の学内サークルとして活動しているバッハ・カンタータ・クラブのOBを中心に、今回のようなバッハの宗教曲等の演奏会のために編成された室内オーケストラである。母体となっているバッハ・カンタータ・クラブは1970年に創立、顧問に服部幸三教授、指導・指揮に小林道夫氏を迎え、現在に至るまで、毎年定期公演を中心に活発な活動を続けている。

●ヴァイオリンⅠ

※蒲生 克郷 田崎 圩真 田中 淳生 萩本 千春

●ヴァイオリンⅡ

田崎 瑞博 堀内 麻貴 三溝 あけみ

●ヴィオラ 李 善 銘 森田 芳子

●チェロ 大木 愛一 小山 みどり

●コントラバス 蓮 池 仁

●フルート 下河 智子 立川 和男

●オーボエ 小畑 善昭 核 政 晴

●ファゴット 寺 下 徹

●ヴィオラ・ダ・ガンバ 宇田川 貞夫

●チェンバロ 鈴木 雅明

●オルガン 伊 藤 恵（仙台宗教音楽合唱団）

※コンサートマスター

▷ 仙台宗教音楽合唱団 ◁

<年 譜>

1967年 仙台宗教音楽合唱団発足

1973年 第1回定演 バッハ「カンタータ第4番」他

1974年 第2回定演 バッハ「マタイ受難曲第I部」

1975年 第3回定演 バッハ「マタイ受難曲全曲」

1976年 第4回定演 バッハ「モテット第3番、カンタータ第147・106番」

1977年 H・リリング氏に招かれドイツ演奏旅行

1978年 第5回定演 バッハ「カンタータ第4・68番」他

1979年 第6回定演 バッハ「カンタータ第21番」他

1980年 第7回定演 ブクステフーデ「イエスのみからだ」他

1980年 第8回定演 シュッツ「クリスマスヒストリーリエ」他

1982年 第9回定演 シュッツ「ドイツ・レクイエム」他

1983年 第10回定演 バッハ「カンタータ第132番」他

1984年 第11回定演 バッハ「ミサ曲イ長調」他

指揮(敬称略)

佐藤 泰平

佐藤 泰平

佐藤 泰平

H・リリング

佐藤 泰平

佐藤 泰平

小林 道夫

佐藤 泰平

佐藤 泰平

東海林 優子

佐々木 正利

佐々木 正利

○ Sop.	氏家 祝子	内海 千賀	江川 佳子	遠藤 昌子
	大友 純子	小畑 都子	蒲生 恵美子	酒井 育子
	鈴木 優子	武田 悦子	徳永 もと子	中井 千佳子
	二星 恵美子	畑山 由佳	福士 淑恵	三浦 由美
	目黒 やそ	キャロライン・スミス		

○ Alt.	池田 裕子	伊藤 美智子	伊東 正壽	大内 光子
	男澤 信子	菅野 玲子	金須 千賀子	今野 誠子
	菅原 祝子	高梨 恵子	田島 和子	成田 智美
	西田 千代子	野瀬 香織	本郷 早苗	丸山 成美

○ Ten.	五十嵐郁太郎	石井 賢	遠藤 徳子	遠藤 浩
	北田 貴義	小泉 治彦	佐藤 栄衛	鈴木 博丈
	武田 裕正	氏家 進	中村 洋	前沢 聡央

○ Bas.	岡田 光晴	小川 浩	加藤 宏朗	神山 博
	工藤 成敬	斉藤 泉	佐々木 和彦	佐藤 清陽
	佐藤 佳樹	庄子 養悦	白石 裕	杉本 道保
	富岡 洋	中井 祐之		

賛助出演：Ten. 佐々木 修 中村 弘人

▷盛岡バッハ・カンタータ・フェライン◁

<年 譜>

指揮(敬称略)

1977. 2.27 “カンタータを歌う会” 発足。

6.28 “盛岡バッハ・カンタータ・フェライン” に改称。

1978. 2.26 “バッハコンツェルト” カンタータ第45番、芸大と共演。

小 林 道 夫

1979.10. 6 “BACH ABEND” カンタータ第158・131番

小 林 道 夫

1980. 2.27 “バッハの夕べ” カンタータ第80番、芸大と共演。

小 林 道 夫

1981. 7. 4 “BACH ABEND” カンタータ第196・182番

小 林 道 夫

1982.11.22 “バッハの夕べ” カンタータ第158・4番

佐々木 正 利

この他、クリスマス・チャリティコンサート、新春コンサート、チャペル・コンサート等に出演。

○ Sop.	荒 井 真由美 雁 部 伸 枝 澤 田 東 子 松 本 由紀子 矢 幅 嘉 子	泉 谷 麻利子 菊 池 誠 子 晴 山 麗 子 三 上 真 美 若 井 祐 子	及 川 芳 里 木 村 泰 子 藤 田 育 世 村 上 伊久子	及 川 彩 子 斎 藤 純 子 松 村 寿 子 柳 田 松 子
○ Alt.	北 山 祐 子 高 橋 孝 子 矢 谷 安紀子	桐 原 絹 子 高 橋 尚 子 Evelyn Olson	佐 藤 公 武 田 敏 恵 茂 木 容 子	高 橋 和 枝 早 川 芙美子
○ Ten.	石 倉 久 夫 鈴 木 康 之 織 田 靖 夫	昆 和 宏 高 橋 雄 一	佐々木 和 哉 竹 田 光 宏	佐々木 朋 也 多 田 英 哉
○ Bas.	安 藤 徳 文 小 原 浄 二 下 田 潤	飯 島 隆 片 野 嘉 明 山 本 陽 一	魚 住 英 昭 木 村 吉 彦 矢 口 尚	小 原 一 穂 佐 藤 智 一

会員募集

ただ今、盛岡バッハ・カンタータ・フェラインでは会員を募集しています。合唱経験の有無にかかわらず、どなたでもお気軽においでください

- 練習日 毎週火曜日PM6:30～9:00
- 練習会場 カトリック志家教会礼拝堂
- 練習曲目 ヘンデル「メサイア」、バッハ「カンタータ」など
- 連絡先 木村吉彦 TEL41-1507
斎藤純子 TEL22-2977

MORIOKA
BACH KANTATE
VEREIN.